

第4章 基本理念及び基本方針

4 - 1 . 元寇防塁全体の基本理念

(1) 本市における元寇防塁の今日的意義

鎌倉時代に訪れた一連のモンゴル帝国（元）との攻防は国内通史の中でも極めてインパクトが強い出来事であり、その後の日本社会にも大きな影響を与えてきた。その歴史的事象を、同時代の遺構として今に伝えるのが本市に残された元寇防塁である。博多湾岸約20km にわたり構築され、石築地と呼ばれた石積みと、それにともなう付帯施設はその防衛上の機能のみならず、当時の景観を一変させる巨大な構造物であった。また、現在の元寇防塁は前線防衛を唯一の目的とした遺構として、当時の国際情勢のみならず、日本国内を広く覆った畏怖と緊張感を今に伝えている。

モンゴル帝国の襲来当時、博多を中心とした箱崎、今津、香椎などの博多湾沿岸部は、中国南宋を中心とした対外交易の門戸であり要衝として、まさに今日に続く「ゲートウェイ都市」として発展を続けていた。また、特に博多においては日本に移り住んだ宋人との混住が進み、グローバルな国際都市として活況を呈していたと考えられている。交流を軸として都市の発展や多様性を生み出していた当時の状況は、まさに今日の福岡そのものである。博多湾沿岸部がモンゴル帝国からの攻撃の対象となったのは、そのような対外的な門戸・要衝であったためであり、「ゲートウェイ都市」であったが故の出来事と言える。さらに、九州一円に所領を有する御家人を動員したうえで、当時持ち得る最大限の技術を駆使して防塁を築造し、博多湾岸に防衛ラインを形成したという、これまで経験したことのない一大土木事業を、非常に短期間のうちに行っている。これも、人及び物資の集積を発展の原動力としてきた拠点都市福岡の一面を象徴的に示す事象と言える。

また、元寇はその歴史的経緯から戦闘行為とは密接不可分な関係であり、実際に2度にわたるモンゴルからの襲来に際しては、各地で戦闘が行われ、その状況は文献・絵画資料にも残されている。現在元寇防塁を通じその歴史的意義を学ぶ我々にとって、その背景や歴史的事実を知り、平和へ思いを馳せることも重要である。

このように元寇防塁は、現在の「アジアに開かれた国際交流都市福岡」・「グローバル拠点都市福岡」の特色を端的に示す歴史資産であるとともに、平和について思いを馳せることのできる場である。そして、その歴史的価値と防塁築造に関わる一連の歴史的ストーリーを知ることは、都市福岡の現在そして将来の在り方について考えることにもつながる。そのためにも史跡の確実な保存・継承を前提としながら、来訪者等に対する訴求力を有し、共感を得ることのできる整備・活用を進めていくことが必要であり、そのうえで、『福岡市歴史文化基本構想』で示しているように、「文化財の価値を都市の活力や都市の魅力向上の資源としていく」ことを目指していく。そして、この貴重な歴史資産を本市の魅力発信、地域活性化、歴史理解等の拠点とするためには、まちづくりとの連携を図りながら市民・地域・NPO・学校・企業等の多様な主体と連携して、公開・活用に取り組むことが必要となる。

(2) 目指すべき将来像と基本理念

史跡元寇防塁においては、その魅力や価値を伝えるため、本質的価値の確実な保存・継承を図りながら、それが有する歴史的な価値や背景を理解及び実感し、現在そして未来について考えるきっかけとなる場としていくことが必要である。そのためには史跡地の持続的な保存修理や環境整備、さらには体験的でわかりやすい情報発信等が求められる。そして、より多くの人々に本史跡の価値を理解してもらうためには、これまで史跡に興味を持っていなかった人に対しても、史跡を訪れる機会を創出していくことが重要な視点となる。そこで、多様な利用者のニーズを踏まえ、誰もが史跡の歴史的価値を容易に理解し、憩い・集える環境を整えたうえで、集客や交流といった多面的な機能を有する場を目指すものとする。

これらを踏まえ、元寇防塁がそれぞれの地域におけるシンボルとして、市民生活に溶け込んだ空間とするとともに、「ゲートウェイ都市」福岡の象徴として認知された存在となることを目指すものである。

【元寇防塁全体の整備活用における基本理念】

中世の国際情勢を端的に示す元寇防塁を通して、平和について思いを馳せながら、対外交流を軸として都市の発展と多様性を生み出してきたグローバルな「ゲートウェイ都市」福岡の、歴史を知り未来につなぐ。

4-2. 箱崎地区元寇防塁における整備の基本理念と基本方針

(1) 箱崎地区元寇防塁の特質

箱崎地区の元寇防塁は、薩摩国に所領を有する御家人によって築造されていることが文献資料等で認められており、これまで確認された他の地区のものとは、石積みの手法、背面の大溝の存在などの点で構造的に異なることが大きな特徴である。このことは防塁の構築手法・機能・維持管理の状況等を考えるうえで貴重な資料を提供しており、これまでとは異なる視点での歴史的価値の提示が可能である。

また、これまで確認されていた防塁は市内西部に偏在しており、箱崎地区では博多湾岸に20kmにわたって築かれた長大な構造物である防塁の東の拠点として、防塁全体を俯瞰し規模等が実感できる位置にある。加えて都心近郊に位置するため、アクセスの点でも他の地点と比べ集客に大きな利点を有するとともに、周辺にも旧唐津街道箱崎のまちなみや宮崎宮などの見どころも多く、回遊性を高めていくことにより周遊の総合拠点として活用していくことが可能である。

箱崎地区元寇防塁においては、これらの特徴を活かしながら、多様な利用者のニーズに対応した今日的な整備・活用に取り組むことが求められる。

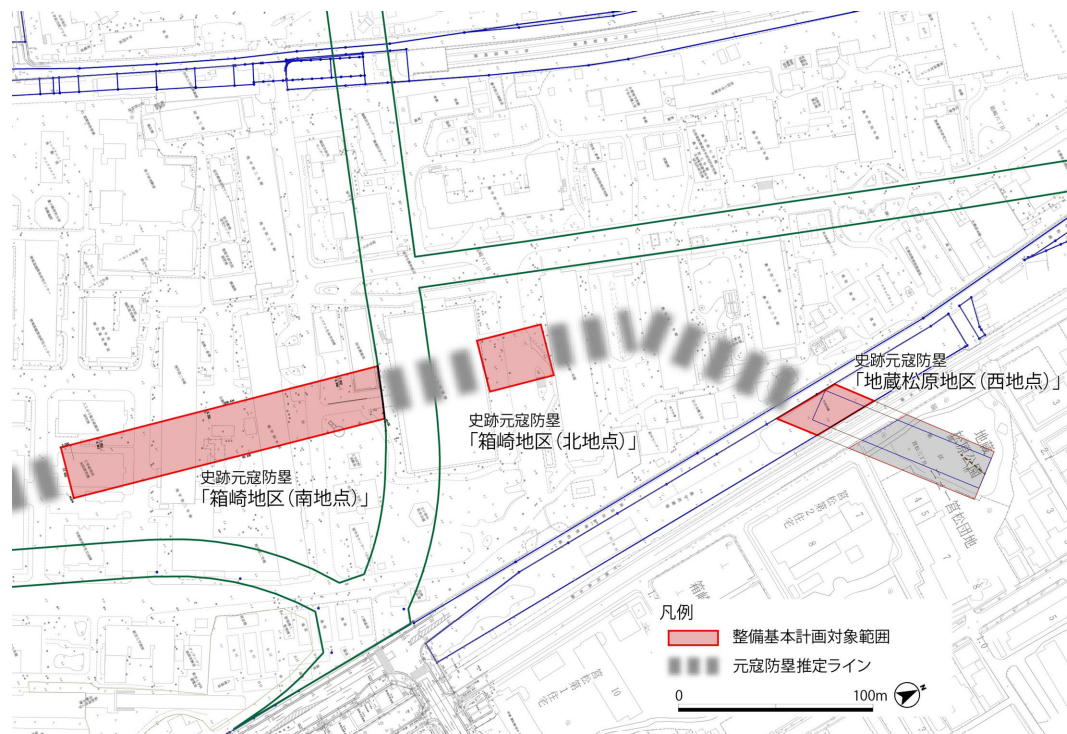


図4-1 箱崎地区および地藏松原地区位置図

(2) 九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくりとの調和

本史跡の所在する九州大学箱崎キャンパス跡地及びその周辺では、多様な社会課題が顕在化する現代において、それら今日的課題を先端技術の導入などにより解決し、快適で質の高いライフスタイルと都市空間の創出、さらにはその持続的な発展を目指す、「FUKUOKA Smart EAST」の考え方に基づくまちづくりが進められている。

史跡の整備においても、過去から連続する時間軸の延長線上に新たに描くまちと調和した方向性を見いだしていくことが重要であり、本史跡の有する本質的価値を確実に保存継承したうえで、新たに創造される先進的まちづくりと元寇防塁の持つ豊かな歴史性との融合が、本史跡の整備・活用において目指す姿ともいえる。

例えば、この場所に訪れる様々な人たちに、史跡の本質的価値を伝えていくプロセスが重要な視点として挙げられるが、そのためには、先端技術を駆使した展示そのものの訴求力を活かすといった手法も考えられる。これは、このまちが提供する先端技術により「誰もが容易に様々なサービスを享受できる仕組み」の中に、本史跡も調和しながら供用していくという方向性に合致するものである。

さらに、新しいまちには、大人、こども、高齢者、外国人、また、視覚障がい、聴覚障がい等のハンディキャップを持つ人といった多様な属性の人々が暮らし、訪れることが想定される。これらの人々に対して、均質な情報を伝えることを可能とする、インクルーシブな史跡空間を目指していくという視点も欠かすことはできない。

また、人はだれしも身体だけでなく精神的・社会的に健康で幸福な状態であることが必要であり、新たなまちに暮らす人々やまちを訪れる人々が健康的で満たされた生活を送るための場の一つとして、史跡も位置付けられる必要があり、誰もが等しく憩える場としての機能も重要な視点である

このように、先端技術の導入等により、誰もが、いつ訪れても、本史跡の価値にアクセスする機会が平等に保証され、あわせて誰もが憩うことができる空間を提供することにより、訪れたすべての人に満足感を抱いてもらえる場を作り出すことが重要である。これは、史跡や本市の歴史文化についてより深く理解することを可能とし、理解できない利用者を排除しない、「インクルーシブ」な考え方や、「ウェルビーイング」な場の提供による史跡の新たな価値の創出にもつながると考えられる。

(3) 箱崎地区における整備活用の基本理念及び基本方針

ここまでに整理した本史跡における現状や諸課題、箱崎地区の位置付け等を基にして、箱崎地区元寇防塁の整備活用における基本理念と基本方針を以下に示す。

なお、現在の新型コロナウイルス感染症対策に鑑み、史跡内での滞在や活用において、ポストコロナの新しい生活様式に配慮した対策や意識の向上を基本方針の前提と位置付ける。

【箱崎地区元寇防塁における整備活用の基本理念】

新しいまちづくりと調和した空間の中で、博多湾岸に広がる元寇防塁に対する理解を深めながら、都市福岡の過去～現在～未来をつなぐ歴史的価値とストーリーを伝えとともに、日常的なゆとりある憩いの空間や様々な分野と連携した取り組みを提供する。

基本方針1：本質的な価値の確実な保存継承

現在、史跡地においては保護盛土を施したうえで、本質的価値を構成する要素である、石積み遺構及び大溝の保存を図っている。

今後の整備・活用にあたっては、遺構の保存継承を確実に言いながら、本質的価値の顕在化を図ることが重要であり、これまでの調査・研究によって得られた知見に基づき、保存継承に向けて十分な対応を図るものとする。特に、整備における工法検討を含めて、確実な保存措置を講じるとともに、多面的な活用を視野に入れた場合に想定される利用者の行動から、遺構を守るための視点でも対応を示すものとする。

基本方針2：「ゲートウェイ都市」としてのシビックプライドの醸成

本史跡が中世における我が国の社会・外交等において、貴重な歴史的事を現代に伝える空間であり、「ゲートウェイ都市」福岡の過去～現在～未来につながる場として、そこに暮らす誇りや歴史に対する関心を醸成し、親しみを育んでいく。

そのために、特に未来を担う子供たちに対しては歴史学習の機会創出に留意し、戦略的な広報展開や学校教育等との連携による歴史学習の拠点形成や史跡を活用したプログラムづくりを推進するとともに、先端技術を活用することにより、多様な人々が史跡を訪れその価値を理解してもらえきっかけを創出する。

基本方針3：先進的まちづくりに調和したインクルーシブな整備

福岡を代表する歴史資産である史跡元寇防塁の整備にあたっては、元寇防塁の持つ歴史的意義やストーリーについての理解・周知を進め、広くその魅力や価値を伝えていくことが必要である。

また、史跡元寇防塁の箱崎地区と地藏松原地区の一部は九州大学箱崎キャンパス跡地に位置しており、史跡の整備・活用にあっても、ここで行われる新たなまちづくりとの調和を目指すものとする。

そこでは、楽しみながら体験的に歴史に対する理解を深めることができる展示解説や先端技術を活用した情報発信等により、誰もが史跡の本質的価値にアクセスできるインクルーシブな整備を目指。

基本方針4：多様な来訪者の憩い・交流の場となる空間の創出

史跡としての活用の枠を広げるために、外部に対して開かれた史跡となるよう、柵のないシームレスな構造としながら、箱崎キャンパス跡地のまちづくりにおいて整備される建築物や公園等と連携したネットワークにおいて、人の流れや滞留を生み出す場とする。

また、まち全体の一体性の一翼を担う空間としての役割にも留意した景観形成を図りながら、日常的な利用を視野に入れ、誰もが憩い、交流することができる空間の創出により、多様な利用者が幸福で満たされた状態であるウェルビーイングの向上を目指す。

基本方針5：新たな価値の付与や魅力の向上による機能充実と活用促進

箱崎地区元寇防塁の立地を活かし、周辺施設や文化資源、市内に点在する元寇防塁指定地等についての理解を深め周遊に誘うとともに、にぎわい・集客・歴史理解に資するための総合拠点と位置付け、便益・休憩機能の充実や活用促進を図りながら、多様なニーズを有する利用者の誰もが憩い、交流することのできる空間の提供を目指す。

またその実現のために、市民・地域・NPO・学校・企業等多様な主体との連携を図り、それら民間活力の導入等による新たな価値の付与や魅力の向上、持続可能な管理体制の構築等を目指す。

	歴史文化基本構想 保存活用の取り組み（基本方針）	関連する SDGs の 目標	グランドデザインまち づくりの方針との対応
基本方針1	□知る ■守る □活かす	4	4
基本方針2	■知る □守る ■活かす	4	2・4
基本方針3	■知る □守る ■活かす	9	1・4
基本方針4	■知る □守る ■活かす	11	1・3
基本方針5	■知る □守る ■活かす	11	1・5



図4-2 整備における基本方針の対応関係